

平成30年6月18日(月) No.427

からだを鍛え 心を磨く いつも仲間とともに 夢のある学校



# 里中だより

川口市立里中学校

川口市里621番地

TEL 048-282-5708

さわやか相談室 284-1010

1年176名 2年179名 3年155名

<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/sato-j/>

## 「人の役に立つ」

校長 高田 晶子

関東地方も梅雨入りし、里中学校の紫陽花の花が雨露にきらきらと輝いています。季節の花は心洗われるような思いになり、穏やかな時間が流れていきます。

5日に1年生の校外学習が行われ、午前中は班ごとカレーづくり、午後はアスレチックと活動的な一日を過ごしました。

11日(月)には、22日から始まる学校総合体育大会の壮行会が行われました。運動部の部長の決意表明をする姿は、逞しさと美しいを感じさせる立派な姿で、3年生の成長を感じ取れるものでした。里中生の日々の成長を頼もしく思っています。



さて、今回は「人の役に立つ」ということについて触れてみたいと思います。

相手に対して直接何かをやってあげたことで役に立った、と思うことはよくあります。困っている時に、「どうしましたか?」「何かお手伝いしましょうか?」という行動ができれば、素晴らしいことだと思います。里中生にの面談の中で将来どのような仕事に就きたいかを問うと、「看護師」「薬剤師」そして「保育士」と答える生徒が多くいました。人の役に立てる仕事をしたいという中から、これらの職種を上げてくれました。仕事のやりがいをもてる仕事の一つだと思います。

では、もう一つの「人の役に立つ」ということについて考えてみましょう。

暑さを感じるような季節になると夏の甲子園高校野球を思い出す人も多いのではないでしょうか。先日、高校野球の世界で春夏連覇をし「平成の怪物」と言われた、現在、中日ドラゴンズの松坂大輔投手の記事を読みました。松坂投手は第80回大会の準々決勝のPL学園戦で、延長17回250球を投げ抜いた、20年前の大会のことを振り返っていました。

PL学園との試合は、他とは比べ物にならない特別な試合です。よく自分が何球投げたかをクローズアップされますけど、あの試合は一番チームに、特に気持ちの面で支えられました。試合に関わっていない人からさえ、「あの試合があるから自分たちは頑張れる」と言ってもらえます。それはすごくうれしい。あの試合があったからこそ、それまでにあった出来事やみんなを思い出す。生きていく上で支えになっていて、「人の役に立っている」気持ちにもなれます。高校野球にはそういう力があると思います。

ここでいう「人の役に立つ」とは、自分が諦めずに一生懸命やり遂げたことによって伝えられたことなのだと思います。頑張る選手の姿が「人の役に立つ」とは、とても素敵なことだと思います。

皆さんの身近にも「人の役に立つ」素敵な場面があるのではないのでしょうか?